

科目ナンバリング		U-LAS02 20005 LJ35									
授業科目名 <英訳>		近代芸術論 A Theory of Modern Arts A					担当者所属 職名・氏名		非常勤講師 植田 彩芳子		
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)			使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	水2		配当学年	全回生	対象学生	全学向		
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)											
[授業の概要・目的]											
近代京都洋画史											
幕末維新时期から明治、大正、昭和前期の京都における洋画の流れを概観する。近代京都の洋画の代表的作例について、時代ごとにわけて分析する											
[到達目標]											
近代京都洋画における表現の特徴などを理解し、作品の歴史的意義を考察できるようになる。絵画に関する鑑賞力と分析力を身につけ、自分の言葉で考えることができるようになる。美術史研究の方法、考え方を習得できる。											
[授業計画と内容]											
1 イントロダクション 2 田村宗立 3、4 浅井忠 5 丙午画会 6 鹿子木孟郎 7 太田喜二郎 8 黒田重太郎 9 黒猫会、仮面会 10 津田青楓 11 梅原龍三郎 12 安井曾太郎 13 須田国太郎 14 北脇昇、小牧源太郎 15 フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末レポートの成績（80％） 平常点評価（20％） 平常点評価には、授業への積極性、毎回の講義でのワークシートにより評価します。 期末レポートは授業に沿った内容で論点を明確にしており、丁寧に文献などを調査した上で、自らの考察を展開しているものについて、高い点を与える。											
----- 近代芸術論 A(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----											

近代芸術論 A (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

『京都の美術Ⅱ 京都の洋画 資料研究』（京都市美術館, 1980年）
黒田重太郎『改訂版 京都洋画の黎明期』（山崎書店, 2006年）ISBN:4903711005
児島薫『日本の美術352 明治の洋画 鹿子木孟郎と太平洋画会』（至文堂, 1995年）
島田康寛『日本の美術353 明治の洋画 浅井忠と京都洋画壇』（至文堂, 1995年）
毎回の講義でも参考文献を紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

美術館・博物館などに積極的に足を運び、各自で美術作品を見学すること。
毎回の授業内では、できるだけ多くの作品画像を紹介し、併せて参考文献を示す。授業を理解し、到達目標を達成するためにも、参考文献に目を通し、自分で関連する文献・資料などを探して読むなど、授業外の学習を積極的に進めること。

[その他（オフィスアワー等）]

授業終了後10分間程度教室にて待機するので、質問があればその時間を利用すること。

[主要授業科目（学部・学科名）]